

まち さん ぽ  
街散歩

浜松町

「江戸」と「東京」が交錯する街—浜松町

青空に向かって真っ直ぐ伸びる“東京タワー” — 私の好きなものの一つです。長身なので、都心の随所から眺められます。そして、この東京のシンボルを身近に感じられる街・浜松町。空の玄関口・羽田空港や海の玄関口・竹芝桟橋への乗換え駅として、その名をご存知の方も多いでしょう。写真を見て、久しぶりに東京タワーに上ってみたいとなった貴方、ちょっと浜松町に寄り道してみませんか。

浜松町駅から海へ

朝日が差し込むJR浜松町駅のホームに降り立つと、かすかに潮の香りが流れてきます。辺りを見回す私の目に飛び込んできたのは、小便小僧(Photo①)。「なぜ、こんなところか?」これは、鉄道開通80周年を記念して、昭和27年に寄贈されたもので、珍しいことに服を着ています。『芝消防署開署119年』と書かれた幟を背負って消防士の仲間入り、といったいでたちは何とも微笑ましい限り。

さて、駅北口から街に出てみましょう。JRのガードをくぐるとすぐ右手に、ひっそりと佇む門に気づきます。ここは江戸最古の大名庭園の一つ『旧芝離宮恩賜庭園』(Photo②)。かつては、海を埋め立てて造られた汐入池(海水を導入した池)をめぐる回遊式の庭園でした。現在は淡水になった池に野鳥が遊び、飛石の上にはひなたぼっこをする亀の親子も見られます。周辺を高いビルに囲まれ、近くを新幹線やモノレールが疾走していく傍らで、ここだけ時間が停止しているかのような錯覚を覚えます。

しばし静かな時を過ごした後は、海を見に行きましょう。竹芝ふ頭公園の広場には、高さ40mの巨大なマストのオブジェがあり、桟橋から出航する





昭和61年秋、芝消防署の依頼で、ボランティアが“江戸火消し”の衣装を作って着せた。それ以来、裸にするのはかわいそうと、季節やイベントに合わせた衣装を着せているとか。なんとともはや、衣装持ちの小便小僧クンである。



1枚の大きな根府川石を使って架けられた石橋。その形が鰻に似ていることから、こう呼ばれるようになったとか。他にも、中国の西湖の堤を模した石造りの堤や、中国古代思想の靈山を表した蓬萊島の石組などがある。

船を見守っています(Photo③)。階段を上ると海辺の遊歩道に出ます。左手には隅田川に架かる勝鬨橋、正面には晴海客船ターミナル、右手を見ると、お台場やレインボーブリッジが初冬の陽光の中にぼっかりと浮かんでいます。もっと雄大な眺望を楽しみたい方は、広場の隣りにあるサウスタワーへ。このビルの21階には、無料の展望室も設けられています。

潮風と戯れながら、さらに歩を進めると、水上バスが発着する日の出棧橋が見えてきました。ここから、隅田川を上って浅草へ行くもよし、お台場へ渡って思い切り遊ぶもよし。約45分間の東京港めぐりだって用意されています。

### 江戸時代へタイムスリップ

海に別れを告げて、再び街中に戻ります。首都高速のガード沿いに進んでいくと、金杉橋から将監橋にかけ、運河の兩岸に釣り舟や屋形舟がぎっしりと停泊しています。「一番奥の船は、どう

やって海に出るんだろう?」そんな余計な心配を振り切って、さらに先を急ぎます。

深い緑に覆われた『芝公園』が見えてきました。まずは、大きな提灯が掲げられている『東照宮』の参道へ。「えっ! お寺の境内に神社?」何か不思議な気がしますが、祭られているのが家康公と聞いて納得。増上寺は徳川家の菩提寺です。

東照宮の裏手に当たる小高い丘は、都内最古の芝丸山古墳。3年ほど前、職場の同僚とこの中腹でお花見をしたことを思い出します。あの時は、ここが古墳などとは全く知らず、飲みや歌えの大騒ぎ。静かに眠る人たちには、さぞご迷惑だったことでしょう。反省……。

ここから東京タワーに向かって歩いていくと、目にも鮮やかな朱色のお堂、港区七福神の一つ『宝珠院辨天堂』です。特にこれといった門構えもなく、少し寂しい印象を覚えます。

宝珠院を出て、すぐ近くの横道に入ると、近くのゴルフ練習場でボールを打

つ乾いた音と、幼稚園児の賑やかな歓声が共鳴する中、『増上寺』の本殿が見えてきました。本殿からは、西日に映える世界貿易センタービルが望めます(Photo④)。本殿には、室町時代に作られたという本阿弥陀如来像が御本尊として安置されています。手を合わせて見つめていると、とても厳粛な気持ちになりました。

気がつく、黄昏が迫っています。四代將軍家綱の命により、江戸で初めて造られたといわれる大梵鐘。昔は、千葉の木更津まで轟いたといわれる鐘の音が、今、境内に厳かに響きわたります。ふっと後ろを振り返ると、そこには、夕闇に黒く浮かび上がる本殿。そして、その背後にそびえ立つ光彩の東京タワー(Photo⑤)。何ともいえない幻想的な情景が広がっていました。

さあ、今日の街散歩の締めくくりは、東京タワーからの夜景をゆっくり堪能するといたしましょう。ではまた……。

参考文献 『新修港区史』港区役所



色とりどりの旗が海風に揺れるマストのオブジェ。実は、この上に船員が乗っていることを知る人は少ない。夜にはライトアップされ、ちょっとしたデートスポットになっている。



当初、麴町にあったといわれる増上寺。將軍家の菩提寺として、また、浄土宗大本山として、厚く信仰されている。奥に見えるのは、世界貿易センタービル。



高さ333m、自立鉄塔としては、パリのエッフェル塔を抜いて世界一の高さを誇る東京タワー。夏は涼しげな白、冬は温かみのあるオレンジの光を身にまとい、夜の東京を見守り続けている。